

緊急提案

TO ; 渡辺委員長

FROM ; 林暁男委員

CC ; 市企画課、戦略会議各位

DATE ; 2011. 9. 29

SUBJECT ; 旧米倉分校の再利用法

植木大学（仮）

匝瑳市は全国でも有数の植木の町で、とりわけ「いぬまき」は全国一と行っても過言でない。「いぬまき」はこの地方では昔から垣根として好まれて使われ、また庭木の植木として日本的庭園のシンボルとして使われてきている。近年は住生活の洋風化に伴い、また最近では景気の長期的低迷による維持管理費の面から人気下落している。

しかし、一方では中国の経済急成長でこの「いぬまき」に対する人気急上昇し輸出により、再び光がさしてきている。しかし課題も多く永遠に続く保障は何処にもなくこの産業が将来的に安泰である保障はない。

最近はまだ九州から拡大したとされる「ケブカカミキリ」という害虫の被害で銘木さえも枯れる被害が拡大しており、決定的な対策はいまだ見出されていない。

大口の輸出先の中国を中心に、海外からの**植木マイスター**の育成する本格的学問機関の新設はこの地の植木産業の安泰につながる有効な手段であると考える。

基本的なスタンス；

学校で学ぶ最も有効な方法に高い授業料で質の高い内容を学ぶこと

将来リーダーシップをとって、その業界を引っ張るような人材を育てたい

学校；

全寮制で2年間とし、さらに研究過程を1年設ける

大学とよんでも一般の大学でなく、大学の3、4年の専門課程を持つカレッジ（専門学校）である

提携；農業およびこの分野で実績のある大学（千葉大農学部、県立農業大学）などと提携

範囲；日本語、日本の習慣と文化、コミュニケーション（英語）

植木の選定、害虫病気対策、苗木、造園、輸出入などの実務論

気候、日本の庭園文化、庭づくり理論など

募集人員；20名

学生；18歳以上で海外からの留学生を主体

授業；最初に6ヶ月は日本語と文化・習慣教育、その後の授業は日本語で一部英語を含む

授業料；高く設定、一年分を前納、中途退学を防ぎ、本気で学ぶ人を集める（卒業時に奨励としての一部還元もありうる）

講師陣；植木の有資格者、現役職人、大学の先生、その他認定の有識者

施設；2教室、自習室、実験室、食堂サロン、実験農場

付帯施設；寮 共同炊事場、浴室、トイレ、洗濯場

初年度は全員入寮、2年度は選択制

アルバイト；規制あり

運営；独立法人、第3セクター 市50%

補助金；市から運営に一部補助

町にもたらす予想効果；

製品販売からメンテナンス技術の販売へソフト産業が上向きになり、活性化する

生産農家の若者の後継者育成につながる

物流を含めた関連事業が活性化し、新規企業が生まれる

町に外国人が同居し、民間交流と消費経済が活発化する

市民のグローバル意識が高まる

将来的に市民公開講座のような門戸ができる

課題等

学校としての許認可をどう取り付けるか？

今後の参考

城西国際大学の入学金、授業料と留学生別科の同料金体制

銚子科学大学の入学金、授業料と留学生の入寮制度